

第87期

# 中間報告書

HIRANO TECSEED Co.,Ltd.

平成22年4月1日から平成22年9月30日まで



株式会社 ヒラノテクシード

| 証券コード | 6245 |

# 素材を創造させる“塗”

私たちヒラノテクシードは1935年の創業以来、熱と風の技術を追求し、“塗”技術を融合させ、時代の流れの中で進化する、素材を化学し、高品質並びに高付加価値の製品を生み出す設備を提供する『コーティング装置のトップ企業』として成長してまいりました。

薄型テレビや携帯電話、さらには太陽電池や燃料電池等さまざまな製造現場を支えるのが当社の技術です。

先端技術

コア  
テクノロジー

主力商品

ヒラノグループ

株式会社ヒラノテクシード  
ヒラノ技研工業株式会社  
株式会社ヒラノエンテック  
ヒラノ光音株式会社

FPD用光学機能性フィルム

フラットパネルディスプレイには、さまざまな機能性フィルムが使われています。当社は近年大型薄型テレビで脚光を浴びている液晶並びにPDP用ディスプレイパネルの中核を占める偏光板フィルム、反射防止フィルム、光拡散フィルム、電磁波防止フィルム、保護フィルム等の“機能性フィルム”を生産する精密クリーンコータを製造しております。



ディスプレイの前面板に貼り、画面の表面反射・映り込みを抑え、反射光を低減する反射防止フィルム等

塗  
工  
機  
素材に多様な機能を持たせる

化学物質を素材に塗り、“薄い膜”を形成すると、素材だけでは不可能な多彩な機能を付加できます。

例えば、液晶やプラズマのFPD（フラットパネルディスプレイ）。フィルムに薄い膜をつくり、それを数種類貼り合わせることで、鮮明な画像が生まれます。この“膜をつくり”“貼り合わせる”のが当社の「塗工機」の役割です。



## 目立たないけれど、大切な仕事

“商品”は知っているけれど“どのような”道具で“どのように”つくられているかは、意外と知らないものです。当社では、創業以来培ってきた“熱”と“風”の技術【乾燥技術】に【コーティング技術】【ラミネーティング技術】【制御技術】を融合させ、お客さまに高精度な機械を提供し、数多くの商品の製造において重要な部分を担い社会に貢献してまいりました。

そして今、私たちはエネルギー分野を中心に環境に貢献すべく取り組

# と“乾”の技術

## フレキシブル基板（FPC）

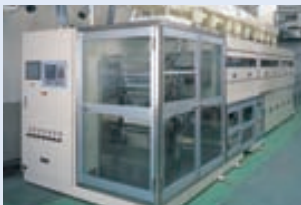
携帯電話に代表されるモバイル端末は近年、薄型・軽量化が急速に進んできました。また、自動車関連でも耐熱性や屈曲性が厳しく要求されます。当社では、これらの分野に使用されるフレキシブル基板の原反となるポリイミドフィルムの成膜装置や、そのフィルムと銅箔などを張り合わせる機械を製造しております。



ポリイミドフィルムに銅箔を張り合わせてできたフレキシブル基板

## 高品質のフィルムを生み出す 薄膜成型装置

液晶・プラズマ・携帯電話などの電子回路のコア部品、フレキシブルプリント基板。この基板の元となる、極めて薄いポリイミドフィルムをつくるのが、当社の「薄膜成型装置」です。フィルムの厚さや品質の均一性が重要となるこの分野で、当社の装置は高い評価を得ています。



み、またさまざまな素材の製造プロセスに貢献すべく技術開発を行っております。

「エレクトロニクス」「高分子化学」「包装」「医療」「産業新素材」等、あらゆる分野において“塗る”“貼る”“乾燥する”“成膜する”という技術で当社の機械が係わっています。

目立たないけれど、大切な仕事です。



## 株主の皆さまへ

株主の皆さまには、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

平素は格別のご高配を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、第87期中（平成22年4月1日から平成22年9月30日まで）の決算を終りましたので、その概況につきましてご報告申し上げます。

株主の皆さまにおかれましては、今後とも一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成22年12月

取締役社長

三浦 日出男

# 事業の概況

Review of Operations

## 事業の経過及び成果

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、中国・アジア等を中心とした海外経済の改善に伴う輸出及び生産に牽引され、緩やかな回復基調にあったものの、後半は欧米経済の懸念に一層の円高や株安も加わり、本格的な景気回復は厳しく先行きの不透明なまま推移いたしました。

このような状況のもと、当社グループは、前期に引き続き環境エネルギー分野及び電気電子部材関連に注力し、高精度薄膜塗工機の拡販に努め、利益面におきましても徹底した経費削減によるコストダウン効果により当初予想よりは改善し堅調に推移いたしました。

また、受注状況につきましては、リチウムイオン電池向け電極塗工装置や海外顧客を中心とした光学機能性フィルムの製造装置等に関する受注も回復傾向にあり、堅調に推移いたしました。

その結果、当中間連結会計期間の売上高は6,286百万円（前年同期比3.5%増）となり、利益面では経常利益536百万円（前年同期比23.4%減）、中間純利益は283百万円（前年同期比37.2%減）となりました。

受注残高につきましては、厳しい受注環境のもと、17,830百万円（前期末比123.6%増）、うち国内は8,863百万円（前期末比73.6%増）、輸出は8,967百万円（前期末比212.6%増）となりました。

## 通期の見通し

今後の見通しにつきましては、設備投資意欲が活況な状態にあり好調な受注環境に支えられ堅調に推移するものと予想されます。しかしながら、長期にわたる円高の影響により国内設備投資の減速が懸念されるなど先行き不透明感は払拭できない状況にあります。

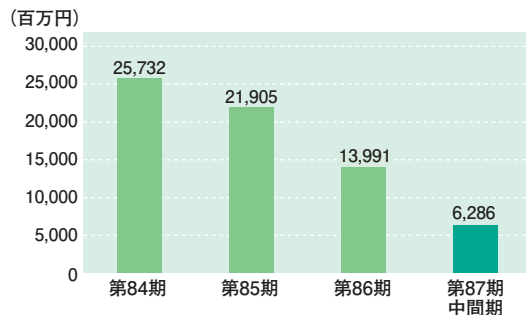
このような状況のもとエネルギー分野に注力し、「お客様の満足を第一に品質の向上」を目指し、高性能の生産設備を提供すべく新製品・新技術の開発に積極的に取り組み、徹底したコストダウンの実施により生産性の向上に邁進し、企業体質の向上を図ってまいり所存であります。

現段階での通期連結売上高は16,000百万円、連結経常利益は1,350百万円、連結当期純利益は810百万円を見込んでおります。

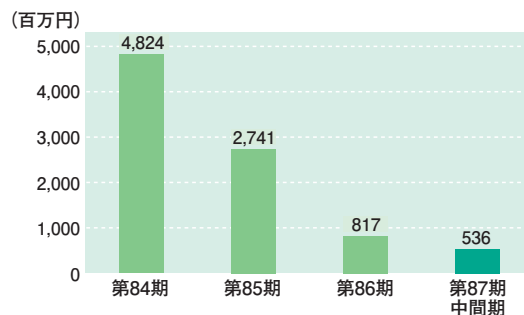
# 業績ハイライト

Financial Highlights

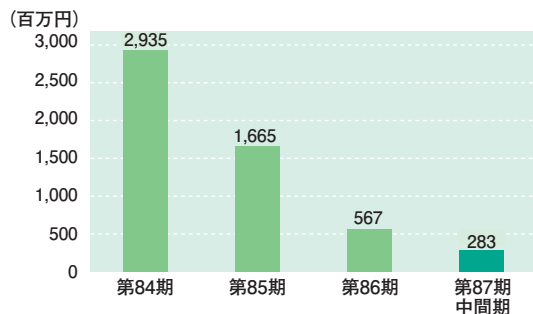
## 連結売上高



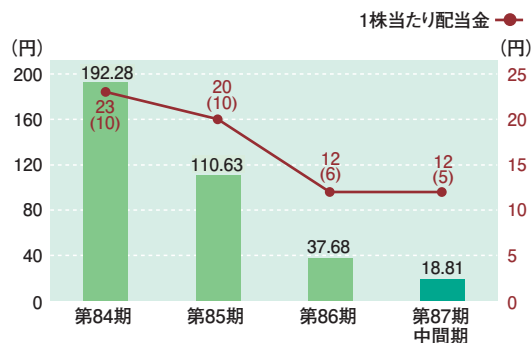
## 連結経常利益



## 連結中間(当期)純利益

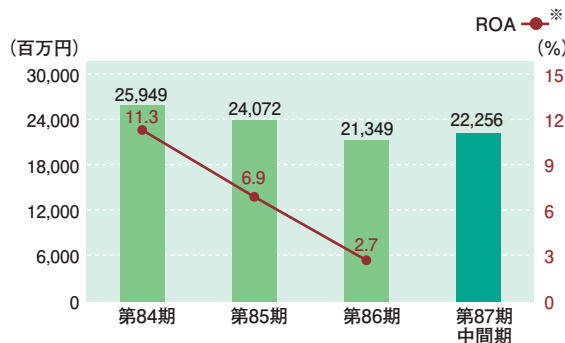


## 連結1株当たり中間(当期)純利益 / 1株当たり配当金



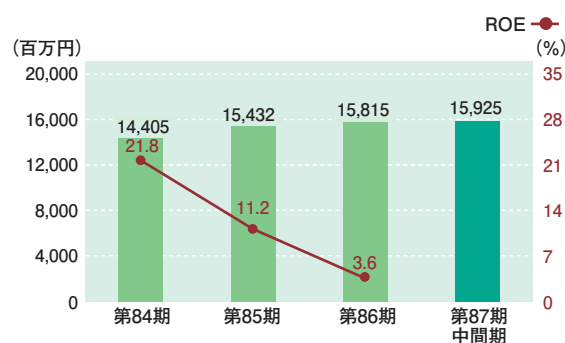
(注) ( )内は中間配当を表し、第84期は記念配当3円を含んでおります。

## 連結総資産 / ROA



※ 当期純利益を採用しております。

## 連結自己資本 / ROE



# セグメントの状況

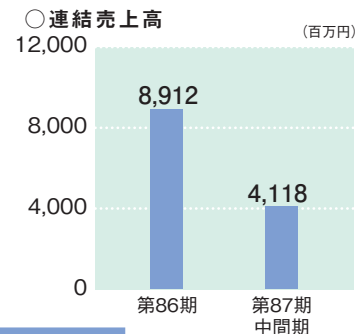
Segment Report

## 塗工機関連機器

各種コーティング、ラミネーティング装置並びにこれらに付随する乾燥熱処理装置及びライン制御装置



塗工機



	第87期中間期	前年同期比
売上高	4,118百万円	11.7%増
国内	2,268百万円	10.9%増
海外	1,849百万円	12.6%増

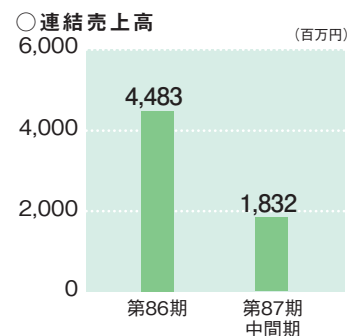
	第87期中間期	前期末比
受注残高	7,517百万円	76.2%増
国内	2,012百万円	2.0%減
海外	5,504百万円	148.8%増

## 化工機関連機器

各種成膜装置、不織布・高機能繊維製造装置、フラットパネル塗布乾燥装置、真空蒸着装置並びにこれらに付随する乾燥・熱処理装置及びライン制御装置



薄膜成型装置

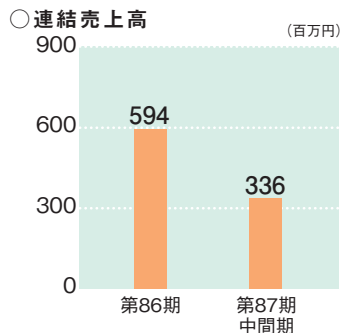


	第87期中間期	前年同期比
売上高	1,832百万円	12.4%減
国内	1,476百万円	17.7%増
海外	355百万円	57.5%減

	第87期中間期	前期末比
受注残高	10,090百万円	182.8%増
国内	6,672百万円	127.6%増
海外	3,417百万円	437.4%増

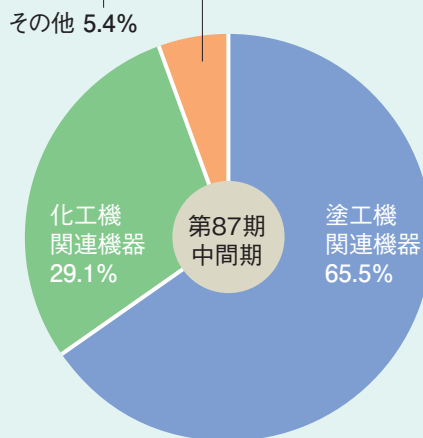
## その他

染色整理機械装置、  
各種関連機器の部品  
の製造及び修理・改  
造等



## セグメント別構成比

○連結売上高



## 第27回全国都市緑化 ならフェア

《やまとはなごよみ2010》

平城遷都1300年を迎えた、いにしへの都奈良の地、その中でも古墳が集中し、歴史や自然あふれる広大な馬見丘陵公園（奈良県北葛城郡広陵町・河合町）をメイン会場として、未来へつなく「花のもてなし」 ～やまと青垣からの贈りもの～ をテーマに、やまとはなごよみ2010が開催されました。

数々の花が会場を彩り庭園・花壇、最新緑化技術、その他様々なイベントも開催された魅力あふれる会場の中



に、弊社は、人と技術と未来を創る『未来をみつめる古くて新しいグローバルテクノロジー企業』ヒラノテクシードが、古都奈良から海外へと展開する様子を、花と緑で表現し彩りを添えました。



ヒラノテクシードはリチウムイオン電池や太陽電池関連の環境エネルギー分野における高精度薄膜塗工装置で、豊かな花や緑を守るお手伝いをしております。



# 中間連結財務諸表

Consolidated Financial Statements

## 中間連結貸借対照表

(単位：百万円)

科 目	前中間期 (平成21年9月30日現在)	当中間期 (平成22年9月30日現在)	前期 (平成22年3月31日現在)
<b>資産の部</b>	<b>21,862</b>	<b>22,256</b>	<b>21,349</b>
<b>流動資産</b>	<b>17,946</b>	<b>17,983</b>	<b>17,127</b>
固定資産	3,915	4,273	4,222
有形固定資産	2,574	3,020	2,861
無形固定資産	176	161	189
投資その他の資産	1,165	1,091	1,171
<b>資産合計</b>	<b>21,862</b>	<b>22,256</b>	<b>21,349</b>
<b>負債の部</b>	<b>6,107</b>	<b>6,331</b>	<b>5,534</b>
<b>流動負債</b>	<b>4,736</b>	<b>4,943</b>	<b>4,312</b>
固定負債	1,371	1,387	1,222
<b>純資産の部</b>	<b>15,755</b>	<b>15,925</b>	<b>15,815</b>
株主資本	15,609	15,825	15,634
資本金	1,847	1,847	1,847
資本剰余金	1,339	1,339	1,339
利益剰余金	12,823	13,042	12,849
自己株式	△401	△404	△402
評価・換算差額等	145	100	180
その他有価証券評価差額金	145	100	180
<b>負債純資産合計</b>	<b>21,862</b>	<b>22,256</b>	<b>21,349</b>

## 中間連結損益計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間期 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	当中間期 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	前期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
売上高	6,072	6,286	13,991
売上原価	4,683	4,973	11,711
<b>売上総利益</b>	<b>1,389</b>	<b>1,313</b>	<b>2,279</b>
販売費及び一般管理費	704	820	1,500
<b>営業利益</b>	<b>684</b>	<b>493</b>	<b>779</b>
営業外収益	29	51	61
営業外費用	13	7	23
<b>経常利益</b>	<b>701</b>	<b>536</b>	<b>817</b>
特別利益	5	6	52
特別損失	-	15	9
<b>税金等調整前中間(当期)純利益</b>	<b>706</b>	<b>528</b>	<b>861</b>
法人税・住民税及び事業税	255	256	262
法人税等調整額	0	△10	31
少数株主損益調整前 中間(当期)純利益	-	283	-
<b>中間(当期)純利益</b>	<b>450</b>	<b>283</b>	<b>567</b>

point  
1

### 流動資産

流動資産は前連結会計年度末に比べ855百万円増加し、17,983百万円となりました。その主な要因は受取手形及び売掛金が570百万円減少しましたが、仕掛品が1,257百万円増加したことによります。

point  
2

### 流動負債

流動負債は前連結会計年度末に比べ631百万円増加し、4,943百万円となりました。その主な要因は支払手形及び買掛金が678百万円、未払法人税等が249百万円、短期資金調達により短期借入金が50百万円がそれぞれ増加、また前受金が293百万円減少したことによります。

point  
3

### 利益剰余金

当期純利益が283百万円計上されております。



## 中間連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

科 目	前中間期 (平成21年4月1日から 平成21年9月30日まで)	当中間期 (平成22年4月1日から 平成22年9月30日まで)	前期 (平成21年4月1日から 平成22年3月31日まで)
point 4 営業活動によるキャッシュ・フロー	2,410	574	3,011
point 5 投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 252	△ 679	△ 701
point 6 財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 109	165	△ 498
現金及び現金同等物の増加額	2,049	60	1,810
現金及び現金同等物の期首残高	8,533	10,344	8,533
現金及び現金同等物の中間期末(期末)残高	10,582	10,404	10,344

point  
4

### 営業活動によるキャッシュ・フロー

営業活動によって得られたキャッシュ・フローは前年同期比1,836百万円減少し、574百万円となりました。主な要因は売上債権が276百万円減少し、受注高の増加に伴いたな卸資産が1,260百万円増加したことによります。

point  
5

### 投資活動によるキャッシュ・フロー

投資活動によって使用されたキャッシュ・フローは前年同期比427百万円増加し、679百万円となりました。これは主に定期預金を301百万円預け入れたこと及び、346百万円の有形固定資産の取得による支出を行ったことによります。

point  
6

### 財務活動によるキャッシュ・フロー

財務活動によって得られたキャッシュ・フローは165百万円（前年同期は109百万円の支出）となりました。これは主に、長期借入金の約定弁済を240百万円行う一方、長期運転資金確保のため長期借入金450百万円実施したこと、また、短期借入金50百万円が純額で増加し、配当金の支払を90百万円行ったことによります。

## 配当のお知らせ

当社グループは、株主各位への配当金は、企業の収益状況により決定するものと考えており、安定的な配当の維持を基本としております。

内部留保資金につきましては、長期的展望に立った新規技術の開発・事業の拡大及び経営体制の効率化・省力化の為の基礎資金として充当し、企業体質と企業競争力の強化に取り組んでまいります。

当中間期の利益配当金につきましては、この基本方針に基づき1株当たり5円とさせていただきます。

# 会社の概況

Company Information

(平成22年9月30日現在)

社名	株式会社 ヒラノテクシード
英文社名	HIRANO TECSEED Co.,Ltd.
創業	昭和10年6月1日
設立	昭和24年7月25日
資本金	1,847,821,888円
従業員数	230名
事業所 本社	〒636-0051 奈良県北葛城郡河合町大字川合101番地の1 電話 (0745) 57-0681
東京支店	〒103-0023 東京都中央区日本橋本町4-8-16 (千城ビル9F) 電話 (03) 3242-5441
インターネット ホームページ	<a href="http://www.hirano-tec.co.jp/">http://www.hirano-tec.co.jp/</a>

## 役員

取締役社長 (代表取締役)	三浦 日出男
常務取締役	馬場 英樹
常務取締役	松葉 茂美
取締役	桑原 茂
取締役	入江 伸晶
取締役	定安 一男
取締役	松本 剛
常勤監査役	高田 賢
監査役	長谷川 義起
監査役	高谷 和光

(注) 監査役長谷川義起氏並びに高谷和光氏は、社外監査役であります。

## 子会社

ヒラノ技研工業株式会社 (産業用機械器具製造)
株式会社ヒラノエンテック (繊維機械等部品製造)
ヒラノ光音株式会社 (理化学機器製造)

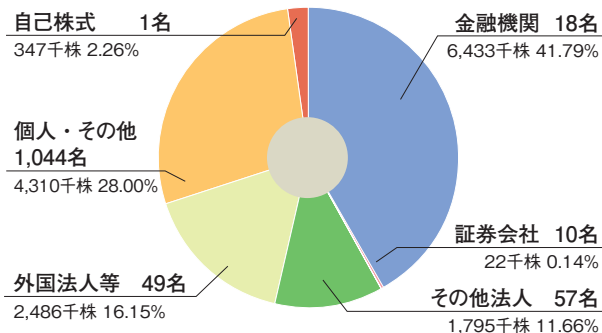
## 株式の状況

発行可能株式総数	50,000,000株
発行済株式総数	15,394,379株
株主数	1,179名
大株主	

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
	千株	%
明治安田生命保険相互会社	1,450	9.64
ヒラノ会	1,160	7.71
伊藤忠商事株式会社	1,000	6.65
日本トラスティ・サービス 信託銀行株式会社 (信託口)	957	6.36
オーエム04エスエスビー クライアントオムニバス	869	5.78
株式会社三菱東京UFJ銀行	737	4.90
株式会社りそな銀行	731	4.86
日本マスタートラスト信託銀行 株式会社 (信託口)	665	4.42
ザチースマンハッタンバンク エヌエイロンドンエスエルオムニバス アカウント	532	3.54

(注) 出資比率は自己株式 (347,192株) を控除して計算しております。

## 所有者別株式分布状況



# 株主メモ

Information For Shareholders

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月中
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内一丁目4番5号 三菱UFJ信託銀行株式会社
同事務取扱場所 (お問合せ先)	〒541-8502 大阪市中央区伏見町三丁目6番3号 三菱UFJ信託銀行株式会社 大阪証券代行部 電話（通話料無料）：0120-094-777
上場証券取引所	大阪証券取引所 市場第二部
証券コード	6245
公告掲載方法	大阪市において発行する日本経済新聞

※株式関係のお手続き用紙のご請求は、次の三菱UFJ信託銀行の電話及びインターネットでも24時間承っております。

電話（通話料無料）：

0120-244-479（本店証券代行部）

0120-684-479（大阪証券代行部）

インターネットホームページ：<http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

ヒラノテクシード ホームページ

<http://www.hirano-tec.co.jp/>

ホームページで当社の事業活動、商品の案内、投資家情報などに関する詳しい情報をご覧ください。ぜひご活用ください。





この中間報告書は、環境に配慮し、再生紙と植物油インキを使用しております。